

(2) 疾病別 分類による休職者等実数並びに百分率

分 類	人 数	構 成 率	全教職員 に対する%
精 神・神 経 疾 患	9人	16.4%	0.5
胃腸・その他消化器疾患	3	5.5	0.2
脳・高血圧・心臓疾患	14	25.5	0.8
呼吸器疾患(除く結核)	1	1.8	0.1
肝 疾 患	4	7.3	0.2
腎 疾 患	3	5.5	0.2
外 科 疾 患	2	3.6	0.1
悪 性 腫 よ う	2	3.6	0.1
結 核 性 疾 患	10	18.2	0.6
そ の 他	7	12.7	0.4
計	55	100	3.0

## 第6節 学校安全会

### 1. 加入状況

昭和46年度の加入児童・生徒、学生等の数は、461,681名で前年に比し12,856名の減少をみた。この減少は小・中・高等学校の児童・生徒数の自然減によるものであり、公立幼稚園、公私立保育所の加入幼児数は逆に増加している。

加入学校数は前年より12校増加しているが、これは新設された幼稚園、保育所の加入による。

義務教育の加入率は99.9%で、特殊事情にある児童・生徒を除き全員加入しており、高等学校全日制も99.8%加入しているが、定時制については83.6%と若干の未加入があり、通信制と私立保育所は、それぞれ55.9%、66.2%と加入は低率である。

#### 昭和46年度加入状況

区 分	学 校 数			児 童・生 徒 数			
	総 数	加 入 学校数	百分率	総 数	加入児童 生徒数	百分率	
義 務 教 育 以 外 の 関 係	国 小 学 校	1	1	100	874	874	100
	中 学 校	1	1	100	569	569	100
	計	2	2	100	1,443	1,443	100
公 立	小 学 校	584	584	100	204,414	204,290	99.9
	中 学 校	297	297	100	118,651	118,628	99.9
	計	881	881	100	323,065	322,918	99.9
私 立	小 学 校	3	3	100	985	985	100
	中 学 校	3	3	100	565	565	100
	計	6	6	100	1,550	1,550	100
合 計	小 学 校	588	588	100	206,273	206,149	99.9
	中 学 校	301	301	100	119,785	119,762	99.9
計	889	889	100	326,058	325,911	99.9	

区 分	学 校 数			児 童・生 徒 数			
	総 数	加 入 学校数	百分率	総 数	加入児童 生徒数	百分率	
義 務 教 育 以 外 の 関 係	国 立 高 等 専 門 学 校	1	1	100	774	774	100
	幼 稚 園	1	1	100	66	66	100
	公 立 高 等 学 校	80	80	100	73,167	73,056	99.8
公 立	定 時 制	30	25	83.3	6,419	5,368	83.6
	通 信 教 育	2	2	100	2,306	1,291	55.9
	校 計	112	107	95.5	81,892	79,715	97.3
公 立	幼 稚 園	129	129	100	8,536	8,535	99.9
	保 育 所	159	158	99.3	11,412	11,265	98.7
	私 立 高 等 学 校	17	17	100	17,087	17,067	99.8
私 立	定 時 制	1	1	100	35	35	100
	通 信 教 育	1			100		
	校 計	19	18	94.7	17,222	17,102	99.3
公 立	幼 稚 園	131	117	89.3	17,009	15,747	92.5
	保 育 所	44	30	68.1	3,876	2,566	66.2
	合 計	596	561	94.1	140,787	135,770	96.4
總 計	1,485	1,450	97.6	446,845	461,681	98.8	

### 2. 共済掛金の額

児童・生徒1人当たりの掛金額は前年度と同額であるが、児童・生徒数の減少により、前年度掛金収入額100に対し、95.6%と減収になった。

昭和46年度	昭和45年度	比較増減	昭和45年度を 100とした比率
54,346,675円	56,630,928円	2,284,253円	95.6%

### 3. 災害共済給付の状況

昭和46年度の給付件数は、11,050件で、給付金総額は、47,123,057円である。給付別には、負傷が10,793件で全体の97.7%を占め、疾病241件で2.2%、廃疾12件、死亡4件である。

学校種別にみると、給付率では中学校が最も高く、つぎに高等専門学校、高等学校全日制となり、1人当たりの平均給付額は、高等学校定時制が最も高額でつぎに、高等学校全日制、中学校、高等専門学校の順となる。

中学校、高等学校全日制、高等専門学校は給付件数も多く、治療にも比較的高額を要している。

昭和46年度の給付状況を前年度と比較してみると、給付件数、金額とも全般に増加しており、とくに中学校、高等学校全日制、幼稚園の伸びが目立っている。